

祝 福祉功労者表彰

● 千葉県知事表彰

《民生委員・児童委員》
時 田 擴 典
山 口 喜 男

● 千葉県社会福祉協議会会長表彰

《民生委員・児童委員功労》
鶴岡恵美子 花 井 耕
福田文江 三 枝 鋭 三

《社会福祉施設・団体関係職員功労》
千葉典子 中村今日子
西田友紀 石原紀夫

● 千葉県社会福祉協議会会長表彰

《民生委員・児童委員功労》
千葉典子 中村今日子
西田友紀 石原紀夫

《社会福祉施設・団体関係職員功労》
千葉典子 中村今日子
西田友紀 石原紀夫

熊本地震 災害義援金 集計状況報告

市原市社会福祉協議会及び市原市では、平成28年熊本地震により被害を受けられた被災者を支援するため、義援金を募集しています。
皆様からたくさんのご支援をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。
これまでに、日本赤十字社に送金致しました義援金の総額は次のとおりです。

総額
5,311,425円

[平成28年
12月9日現在]

いちはらスマイルカンパニーの表彰

（市原市障がい者雇用推進事業所）

市原市では、障がい者の雇用促進及び就業の安定を図るため、障がい者雇用積極的に取り組み、障がい者が働きやすい職場環境に努めている従業員50人未満の事業所を「いちはらスマイルカンパニー」として表彰しています。
平成28年度は、OA機器の回収から、手分解による資源リサイクル業を行っている株式会社トレス環境システムを表彰しました。



表彰式 平成28年11月20日

【事業所名】株式会社トレス環境システム
 【代表取締役】谷口 兼史
 【所在地】市原市青柳1-11-22
 【業 種】リサイクル業
 【従業員数】5名(うち、障がい者1名)

主な取り組み

- トライアル雇用の実施やジョブコーチと連携を図り、障がい特性の理解に努めた。
- 荒天時の送迎や電動ドライバーのみで行う作業など、安全面の配慮。
- 障がい者就労支援施設に解体作業を提供。
- 特別支援学校や大学等の職場見学、職場実習の受入。

サンハートまつり

日 時 1月22日(日) 10時～15時

会 場 サンハート (三和保健福祉センター)

問合せ TEL 37-7100

作品の展示と発表
福祉団体による模擬店
地区社協による模擬店

児童館子どもボランティア
によるパネルシアター

ありがとう

寄附 (8月～11月) 敬称略

● 匿名 光風台在住	30,000円
● 匿名 若宮在住	12,000円
● 明治安田生命保険相互会社 労働組合	雑巾265枚
● 千葉南社 代表 金澤 真弓	50,000円
● 市原ライオンズクラブ	10,000円
● 市原南ライオンズクラブ	67,970円
● 千葉よみうりカントリークラブ	1,000,000円
● ドリームチャリティゴルフ	
● 匿名希望	

いちはら

社協だより

社協だより5/20、1/20発行号は、町会長の皆様にご協力いただき町会回覧にて世帯配付しています。

【発行】市原市社会福祉協議会 〒290-0075 市原市南国分寺台4-1-4 TEL.0436(24)0011 FAX.0436(22)3031

http://www.ichihara-shakyo.or.jp

E-mail info@ichihara-shakyo.or.jp

No.219
2017
1月号



平成二十九年 元旦

社会福祉法人市原市社会福祉協議会
会長 深谷みどり

会長あいさつ

あけましておめでとうございいます。皆さまには、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年中は、本会事業の推進にあたり格別のご厚情とご尽力を賜り、深く感謝申し上げます。本年も、皆さまと協働で地域福祉の推進に邁進して参りたいと存じますので、皆さまのご支援、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

赤い羽根共同募金活動

上総いちはら国府祭り

に参加しました!






第6回上総いちはら国府まつりに参加し、「赤い羽根共同募金会街頭募金」と「ポップコーン」&「飲み物」の販売をしました。
「募金活動」には、京葉高校の生徒さんにボランティアとして協力いただきました。皆さまのご協力ありがとうございました。

※この売り上げは、全て共同募金として千葉県共同募金会へ送金させていただきます。

実績	募 金 額	22,335円
	ポップコーン及び飲み物	101,450円
	合 計	123,785円



いつ起こるか分からない**災害** ひとりひとりの**備え**が大切です



～被災時の地域住民による取り組み～

有秋地区 住民主体の避難所運営

11月12日(土)に有秋公民館にて、有秋地区社協、3小学校区NW及び有秋公民館共催の避難所運営の体験を行いました。これまでは、避難所運営体験としてゲーム形式で体験する「HUG訓練」を行ってきましたが、今回はこれを更に進めて、運営上の問題点としてフォーカスされた事項をさらに追求すべく、行政支援が行き届かない状態を想定して、自主運営形式での実務体験を行いました。

地域住民、町会関係者や、各種団体の方に参加いただくことで、地域全体で防災意識の向上を図ることを目的としました。研修の内容は住民同士協力して、避難所運営委員会を立ち上げ、避難者ニーズを把握することや、炊き出し訓練などを行いました。被災時に地域で対応出来るように、今後のマニュアル作りの必要性や、被災時には地域の繋がりが必要不可欠なので、今後も地域の繋がりを密にとっていく必要性を強く感じました。



～防災への備えの取り組み～



南総地区「子育て家庭のための防災・減災講座」



「小さなお子様のいる家庭への防災に関する情報が少ない」という事で、乳幼児から、小学校低学年のお子様を持つ家庭の保護者を対象に11月27日(日)になのはな館で、南総地区社協主催の災害支援ボランティア事業を開催しました。講師の坂内美佐子さんには、①自然災害の現状とメカニズム②被災時の子どもへの影響③被災時の親としての心構え等についてご教授いただきました。特に、参加者の皆さまからは、ビニール袋で作る防寒着や雨具は実際に役立つ知識としてとてもためになったと参加者からの声をいただきました。

初めて子育て家庭を対象とした事業を企画しましたが、「支援者」としても、地域の中で子育て家庭に対してどのような配慮が必要か考える機会となったと思います。今後も若年層を含めてもっと防災意識を高めていただけるよう呼びかけていきたいと思います。

非常用備蓄品チェックリスト

大地震などの災害後は、電気・ガス・水道が供給されないことが予想されます。救援物資が届くまでに最低でも3日以上かかると言われています。日頃からできる「減災活動」として、災害時に備え備蓄品を用意しておきましょう。備えが自分自身の身を守ります。

基本用品	あとと便利な用品	個別に必要な用品
☐ 非常持出し袋 ☐ 飲料水 ☐ 非常食 ☐ ヘルメット・防災ずきん ☐ ホイッスル ☐ 手袋(作業用) ☐ 運動靴 ☐ 懐中電灯・ランタン(予備電池) ☐ 油性マジック ☐ 万能ナイフ類 ☐ ロープ ☐ 携帯ラジオ(予備電池) ☐ 携帯電話充電器 ☐ 連絡先メモ ☐ 身分証明書・健康保険証	☐ 筆記用具 ☐ 現金(10円硬貨含む) ☐ 救急用品 ☐ 持病薬・常備薬 ☐ マスク ☐ 簡易トイレ ☐ ティッシュペーパー ☐ トイレ用ペーパー ☐ ウエットティッシュ ☐ 使い捨てカイロ ☐ サバイバルブランケット ☐ ハンカチ・タオル ☐ ポリ袋 ☐ ビニールシート ☐ ライター	☐ 衣類・下着 ☐ 毛布 ☐ 雨具 ☐ ローソク ☐ 塩・調味料 ☐ 食器類(箸・紙コップ・紙皿等) ☐ ラップ ☐ アルミホイル ☐ 缶切り ☐ カセットコンロ・ボンベ ☐ 鍋 ☐ 歯磨き ☐ 石鹸 ☐ ドライシャンプー ☐ ふるしき ☐ 新聞紙・ダンボール

自分の必要なものを選び
家族で相談して備えましょう

準備は
できて
ますか



～社協の取り組み～

災害ボランティアセンター設置運営訓練

社協では、市内で大規模災害が発生した場合に備え、災害ボランティアセンターの設置・運営に関する「災害ボランティアセンター設置運営訓練」を毎年度実施しています。

今年度は、災害支援活動に取組むさまざまな機関・団体のご協力のもと、地区社協や小域福祉ネットワークの活動者、千葉県立京葉高等学校や市原緑高等学校の生徒など総勢125名に参加いただき、訓練を実施しました。

災害ボランティアセンターとは…

災害ボランティアセンターは、災害時に“ボランティア活動を必要としている人”と“ボランティア活動を行う人”をつなぎ調整を行うための組織で、市原市では社協が中心となって設置・運営することとされています。

災害ボランティアセンターの活動内容

被災地のニーズの把握

家の片づけ、避難所でのお手伝いなど、被災地のニーズを収集します。



ボランティア活動の実施・調整

被災された方々からの要望に合わせて、駆け付けていただいたボランティアと活動の調整、送り出しをします。



ボランティアの受け入れ

災害ボランティアセンターを立ち上げたことを、情報発信し、活動を希望するボランティアの受け入れを行ないます。

報告の検証

日々変化する被災地の状況に応じ、活動の問題点や改善点を検討し、明日以降の運営に反映していきます。



災害ボランティア一日の流れ

1 受付

ボランティア活動の受付、ボランティア活動保険(天災タイプ)に加入します。



2 オリエンテーション

体調、服装や持ち物の確認。無理をしない活動など、ボランティア活動の注意点の確認。



3 ボランティア活動の決定

被災された方々からの要望に対して、支援に必要なボランティア活動者が割り振られ派遣先へ向かいます。



4 ボランティア活動

依頼場所に移動し、被災された方々からの要望に合わせて、復旧、復興に関する活動を行います。



5 活動報告

活動が終了したら、ボランティアセンターに戻り活動の報告をします。その日に終わらなかった活動は、翌日以降もボランティアが引継ぎ・活動します。



学生ボランティアからの感想

マッチング班の運営体験を行った

石田 遼くん

大勢の人前で話す機会がなかったので緊張したが、災害ボランティア役の前で説明したりできたので、今回大変、勉強になりました。今後、またぜひ、参加したいです。

ニーズ班運営体験を行った

安藤 好美さん

最初は何をやって良いのかわかりませんでしたが、不安な私に対して、皆さん声を掛けてくれました。ボランティア活動に興味が増え、良いコミュニケーションの場となりました。

